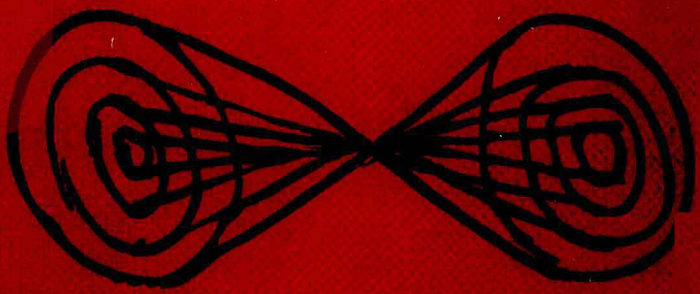

シェイクスピア ★★

ロミオとジュリエット　夏の夜の夢
ヴェニスの商人　ヘンリー四世第一
部　ヘンリー五世　アントニーとク
レオパトラ　あらし

中野好夫・平井正穂・菅　泰男
大山俊一・小津次郎・和田勇一訳

世界文學大系

75

筑摩書房版

世界文学大系 75

シェイクスピア ★★

昭和40年3月5日発行

訳者代表　中野好夫
発行者　古田晁
発行所　株式会社 筑摩書房
東京都千代田区神田小川町2の8
振替東京 4123　電話（291）局 7651

目次

ロミオとジュリエット　中野好夫訳　5
夏の夜の夢　平井正穂訳　77
ヴェニスの商人　菅泰男訳　117
ヘンリー四世　第一部　中野好夫訳　169
ヘンリー五世　大山俊一訳　239
アントニーとクレオパトラ　小津次郎訳　299
あらし　和田勇一訳　357
シェイクスピアの世界　エヴァンズ　平井正穂訳　395
解説　小津次郎　407

装

幀

庫

田

發

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

シェイクスピア ★★

ロミオとジュリエット

登場人物[1]

エスカラス　ヴェロナの太守、公爵。
パリス　青年貴族、太守の縁戚。
モンタギュー　キャピュレット　相互に敵視する両家の家長。
キャピュレット家一族の老人。
ロミオ　モンタギューの息。
マキューシオ　太守の縁戚、ロミオの友人。
ベンヴォーリオ　モンタギューの甥、ロミオの友人。
ティボルト　キャピュレット夫人の甥。
僧ロレンス　僧ジョン　フランシス派修道僧。
バルサザー　ロミオの召使。
サムソン　グレゴリ　キャピュレット家の下人。
ピーター　ジュリエットの乳母の召使。
エイブラハム　モンタギュー家の下人。
薬師。
楽手三人。
パリスの侍童、他に侍童一人、役人一人。
モンタギュー夫人　モンタギューの妻。
キャピュレット夫人　キャピュレットの妻。
ジュリエット　キャピュレットの息女。
ジュリエットの乳母。
ヴェロナの市民大勢、モンタギュー、キャピュレット両家の男女数人、仮装舞踏会の出席者、警吏、夜番、従者たち大勢。
序詞役。

場面

ヴェロナおよびマンチュア。

序詞[2]

序詞役登場。

舞台も花のヴェロナにて、
いずれ劣らぬ名門の
両家にからむ宿怨を
今また新たに不祥沙汰。
仇と仇との親よりも
生い出し花や、呪われの
恋の若人、あわれにも、
その死に償う両家の不和。
宿世(すくせ)つたなき恋の果て、
愛児の非業に迷いさめ、
今は怒りも解けしちょう、
仔細はここに、二時(ふたとき)を、
足らわぬ節(ふし)は大車輪
勤めますれば、御清覧、伏して願い奉る。
〔退場〕

(1) シェイクスピアの原本（第一、第二・四折本、第一・二折本全集）にはこの登場人物表はない。後世編纂者の付加したもの。
(2) この作品は、第一幕と第二幕の最初に、序詞（プロローグ）がついている。序詞役（コーラス）が一人、登場して朗誦する。原文はソネット（十四行詩）形式になっている。ただし、厳密にシェイクスピアの筆かどうか疑わしい。

第一幕

第一場　ヴェロナ。広場[1]

キャピュレット家の下人サムソンとグレゴリ、剣と楯とをもって登場。

サムソン　グレゴリ、われわれもう虫[2]を殺すのはまっぴらだぞ。

グレゴリ　そうとも、それこそとんだ虫殺しというもんだからな。

サムソン　なに、疳の虫にグッと来てみろ、腰の一刀抜く手は見せんぞ、というのだ。

グレゴリ　そうよ、まあ呼吸の根のあるうちに、貴様のほうこそ首根っこ引き抜かれぬ用心しろ。

サムソン　カッとなりゃ、おらァ一刀両断だ。

グレゴリ　だが、そこは貴様のことだ、カッとなるまでが大変だ。

サムソン　なに、モンタギューの一家とありゃ、犬っころ見てさえカッとなる。

グレゴリ　いいか、カッとなるたァ、カケ出すことよ。勇気のある奴は踏ん止まる。だから貴様なざァ、カッとなりゃ、逃げ出すってほうだろう。

サムソン　ところがね、おれァまたあの家のものと聞きゃ、犬っころ見てさえ、カッとなって踏ん止まる。男だろうが、女だろうが、かまやしねえ、モンタギュー一家の奴とありゃ、おれァいきなりおっかぶせてやっつけてみせる。[3]

グレゴリ　だから貴様は腰抜けだというんだ。おっかぶせてやっつけちまうなんて、弱い奴に決まってる。

サムソン　なるほど、女は弱いということだが、道理で、いつもおっかぶせられて、やられちまうんだな。だからよ、おれァモンタギューの男と見りゃ、おっかぶせて張りたおす。女と見りゃ、こいつはおっかぶせて押えこむ。

グレゴリ　女手出しはよせやい。喧嘩はな、御主人たちとおれたちと、野郎同士のことなんだ。

サムソン　そんなことは同じだ。とにかくおれは暴れてみせる。ところで野郎どもの喧嘩がすみゃ、ついでに女もただではおかぬ。急所[4]を一番、刺し貫いてくれるぞ。

グレゴリ　女の急所だと？

サムソン　そうよ、女の急所、生娘のあそこ、——どうなと勝手におとりなさい、だ。

グレゴリ　なるほど、ピリッと痛いなァ向う様だな。

サムソン　おれの抜身がおっ立つわけだ、ピリッと来るなァあたりめえだ。なにしろおれのは相当の逸物だからな。[5]

グレゴリ　まあ、魚でのうて幸せよ。[6]魚じゃ、どうせまず塩ダラってところだろうからな。おい、さあ抜いた。来たぞ、モンタギューの奴らが二人。

サムソン　合点、抜身はこれだ、このとおり。買って出ろ、喧嘩を。後にはおれが控えてる。

グレゴリ　チェッ、こいつ。てまえなんぞ怖がるかい。

グレゴリ　おや、貴様、尻に帆かけて逃げる気か？

サムソン　大丈夫、怖がるなよ。

サムソン　おい、やっぱり、こっちは好い子になっとこうぜ。仕掛けは向うにやらせろよ。

グレゴリ　じゃ、擦れ違いに、イヒヒヒを一つやるからな、どう取るかは先方様の御勝手だ。

サムソン　そこは向うの度胸次第。ところで、それじゃおれも指噛み[7]を一つかましてやろう。黙って通りゃ、こいつは向うの面汚しだ。

モンタギュー家の下人エイブラハムとバルサザー登場。

エイブラハム　貴公は、われわれに向かって指噛みをされるのだな？

サムソン　いや、ただ指を噛んでいるだけで。

エイブラハム　だから、われわれに向かって噛みをされるのだな？

サムソン　〔グレゴリに向かって傍白〕おい、言い分はこっちのもんだろうな、ウンと言っても？

グレゴリ　だめ、だめ。

サムソン　とんでもない、指噛みなどした覚え

はない、ただ指を噛んでいるだけだ。

グレゴリ　喧嘩を売る気か？

エイブラハム　喧嘩を売る？　とんでもないことだ。

サムソン　売る気なりゃ、相手はおれが引き受けた。われわれとても立派な主人持ち、貴公らの主人に劣けはとらぬぞ。

エイブラハム　といって、威張るほどでもあるまいが。

サムソン　いや、なるほどな。

グレゴリ　格が違わァと、そう言うんだ。ほら、来たぜ、殿の身内のお一人が。

サムソン　どっこい、格が違わァ。

エイブラハム　嘘つけ。

サムソン　男なら、抜いてみろ。おい、グレゴリ、頼むぜ、凄いとこ一本。

ベンヴォーリオ登場。

ベンヴォーリオ　馬鹿野郎ども、双方引いた！　やい、納めろ、剣を。このお先真暗の向うみず野郎どもが。

ティボルト登場。

ティボルト　なんだと、こんな腰抜け野郎ども相手に剣など抜いて、どうしようというんだ。やい、

ベンヴォーリオ、相手はおれだ、観念しろ。

ベンヴォーリオ　おれは仲裁に入っただけのこと。貴様こそ剣を納めたらどうだ。それとも力をかして、こいつらを、それで引き分けてもらいたい。

ティボルト　なに、抜身をさげての示談話だと？　聞いただけでも虫ずが走るわ。地獄と一切モンタギューの奴らは――貴様もそうだが、それほどいやだ。さあ、行くぞ、腰抜け！

両家の者数人、それぞれ登場、喧嘩に加わる。つづいて市民たち、棍棒をもって登場。

市民たち　棒だ、棒だ！　槍だ！　矛だ！　打ちのめせ！　叩き伏せろ！

キャピュレット方をやっつけろ！　モンタギュー方をやっつけろ！

キャピュレット、部屋着のままで、夫人を伴って登場。

キャピュレット　何事じゃ、この騒ぎは？　おい、長剣をよこせ、わしの。

キャピュレット　いいえ、杖、松葉杖ですのよ。あなたまでが、なにしに長い剣などを？

キャピュレット　ええい、剣だというのに！　モンタギューの奴めが来るではないか。白刃など振りまわして、まるでわしへの面当てだ。

---

(1)　場所の指定は同じく後世編纂者の付加。幕割、場割はすべて後代の編集である。古刊本にはない。この場、引幕を閉じて、外舞台で進行。なおこの「ロミオとジュリエット」は、劇の進行が急で、その劇的時間の経過について、作者は細心の注意を払っているから、以下参考のために注しておく。第一幕第一場は、日曜日の朝、九時前後であることが、九ページ中段28行ベンヴォーリオ「九時を打ったばかりだ。」でわかる。

(2)　以下、地口問答がしばらくつづく。訳文ではかなり変更を加えたから、原文のそれを挙げておくと、

サムソン　(一)炭を運ぶ。(二)侮辱を忍ぶ(carry coals)のは真平だ。

グレゴリ　そう、炭屋(colliers)になることだからな。(一説に、炭屋は嘘吐き、不正直者として悪世評があったという。)

サムソン　つまり、腹が立つと(in choler――colliers と音が通う)、剣を抜く。

グレゴリ　呼吸のあるうちに、首輪(collar――choler と音が通じる)をはめられぬようにしろ。

(3)　原文は「道路の両側壁に近い側を取る」take the wall とあり、当時はまだ道路の状態が悪く、中央は車馬の往来や泥濘などで危険が多く、それに対して両側に近い側がより安全とされていた。したがって男同士、道で出会わせば、強者が弱者を押しのけて、壁側を通行し、これが一種の特権と見なされ、「人に対して壁側をとる」とは、「人に勝つ」の意があった。同時に、女に対しては、弱者として、男はこの壁側をゆずるのが常であった。それが次のグレゴリのセリフ、原文では、「弱い方が壁側へ行くに決まっている」The weakest goes to the wall となるのである。

(4)　原文は maiden-head (処女膜、処女性)。

(5)　原文は a pretty piece of flesh (一)大男、の意と、(二)相当に大きな penis の意にもとれる。

(6)　前注の flesh を「獣肉」の意にとって、それに対していう。

(7)　拇指の先を前歯でかむようにし、相手に向かって、それを上歯で弾くようにする。人を侮辱するしぐさ。

モンタギューとモンタギュー夫人登場。

モンタギュー　おのれ、キャピュレットの奴め！　止めるな、放せ！

モンタギュー夫人　一歩も動かせは致しません、われと刃傷沙汰をお求めになったりして。

ヴェロナ太守、従者を伴って登場。

太守　治安を乱す不逞の輩、してまた、隣人の血潮をもって刃を汚す不埒の徒――なんと、聞く耳持たぬというのか？　ここな、人の皮着た獣めら！　おのれらは、怖ろしいその瞋恚の炎を消すに、われとわが血管より流れる、鮮血の泉をもってしようというのか。拷問がこわくば、血に飢えたその手から、今こそ凶器を投げ棄てて、怒れる太守の言葉を聴け。汝、キャピュレット、してまたこなた、モンタギュー、汝ら両人は、つまらぬ言葉のきっかけから、三たび騒ぎを醸し出し、三たび市内の治安をかき乱した。ために、ヴェロナの故老どもも、つい老いの手にふさわしい杖をすて、無用に錆びた矛などを、劣らぬこれも老いの手に振りかざし、汝らの心に錆びついた憎しみの中に、割って入らねばならぬことにもなる。向後、二度と市中を騒がすにおいては、汝らの生命は、治安擾乱の責としてきっと申し受けるぞ。今度だけは、余の者はすべて帰ってよろしい。だが、キャピュレット、貴殿だけはわしと一緒に来なさい。それからモンタギュー、貴殿は今日午後、市の法廷フリータウン[1]まで出頭してもらいたい、この件に関し、今少しわしの考えを申し聞けるから。重ねて言うが、生命が惜しくば、皆々立ち去るがよい。

〔モンタギュー、同夫人、ベンヴォーリオの三人を残して、一同退場〕

モンタギュー　何者だ、この古い争いをまたしてもかき立てたのは？　これ、ベンヴォーリオ、貴様は最初から居合わせたのか？

ベンヴォーリオ　いや、敵方の下人どもと、伯父上の下人どもとが、ちょうどここで切り結んでいる、そこへ私が来合わせたのです。私も剣を抜き合わせて、双方を分けようとしていますと、たまたま向うから、あの猪武者のティボルトめが、これも抜身を提げて来合わすというぐあい。奴め、いきなり私に戦いを挑むと、振りかぶるなり、風を切って振り廻すのですが、あいにく風のほうじゃ、嘲り顔にヒューヒュー音を立てるばかり、そんなふうで、われわれ互いに切り結んでいるうちに、ますます人数は馳せ加わり、それぞれ別れて戦っているところへ、太守が見えて、お引き分けになったというわけです。

モンタギュー夫人　おお、ロミオはどこへ行きました？　今日お会いになって？　この喧嘩に、幸いあの子が居合わせないで、ほんとにようございましたわ。

ベンヴォーリオ　いや、伯母上、今朝、あの日の神が、東の空の金色の窓から、顔を出します一時間ばかり前、私は胸の悶えに耐えかねて、起き出たのですが、ちょうど市の西はずれの鈴懸の森、あの森蔭を通りかかりますと、そんな早い時間に、ロミオ君がこれも起き出して、散歩しているのです。近づいて行くと、向うでもそれと気がついて、そっと茂みの奥へ隠れてしまわれましたが、そこは私自身の心持からも、つまり人ひとり居る時こそ、かえって一番物思いの忙しい時だということを察してですね、

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

彼は彼、私は私という気持になり、向うの避けるのを幸いに、
こちらも喜んで避けてしまったのです。
モンタギュー　あれの姿は、幾朝となくあそこで見られたそうだ。
朝明けの露に、涙を結び添えるやら、さては深い溜息に、
さらでも濃い雲に、さらに雲を増しながらな。
だが、それも雲吹き払うあの日の光が、
はるか東の空に、暁の女神の臥床から、
その小暗い帷をかかげ始めるか始めぬかに、
もうあれの暗い心は、かえって明るみを避けて、
そっと家に忍び帰り、ただ一人部屋に閉じこもると、
窓を閉じ、美しい光を締め出して、
われからと夜の暗さをつくるのだ。
こうした気持、これはきっと不祥の前兆に決まっている、
なんとかして、その原因を除かぬことにはな。
ベンヴォーリオ　伯父上、原因はおわかりなのですか？
モンタギュー　いや、知らぬ。それに、聞いても言わない。
ベンヴォーリオ　なんとか、強ってお訊ねになったことはないのですか？
モンタギュー　わしも聞いてみたし、友人たちにも聞いてもらった。
だが、奴は胸のうちを、ただ己れの心に打ち明けるだけで、
その点、わが胸一つにはひどく義理を立て、
——といって
これがどこまで自己に忠なる所以か、それは疑問だがな——
とにかく堅く秘密を守っている。探りも、突きとめも利かぬことは、
まるで蕾が、その芳しい花弁を風に開き、
あでやかな姿を日の神に捧げぬ先に、
はや意地悪い害虫の蝕むところとなったようなものだ。
悲しみの原因さえわかれば、すぐにも療法を求め、
すぐにも施してやりたいのだが。

ロミオ登場。

ベンヴォーリオ　おお、ロミオ君だ。どうかこの場をはずしてください、
よほどのことでもない限り、きっと悲しみの原因を探り出しますから。
モンタギュー　では、ここにいて、うまく本当のはらを聞きだしてもらいたい。さあ、お前も、行こう。
〔モンタギュー、同夫人退場〕
ベンヴォーリオ　お早う、ロミオ君。
ロミオ　まだそんなに早いのかね？
ベンヴォーリオ　九時を打ったばかりだ。
ロミオ　そうか、憂いに永き日の思いか。
今、あの急いで行ったのは親父だね？
ベンヴォーリオ　そうだ。だが、それにしても何の憂いで日が永いのだ？
ロミオ　わが物となれば時も忘れる、そのあるものがないためさ。
ベンヴォーリオ　恋か？
ロミオ　いや、恋の——
ベンヴォーリオ　かなわぬ嘆きだな？
ロミオ　わが思う人の思わぬその恨みさ。
ベンヴォーリオ　やれやれ、よそめにはしおらしいあの恋が、
正体は、これほどむごい悪性者だとはなあ！
ロミオ　それにしても、常住目かくしのはずの恋の奴めが
眼は無くとも、思いのままに目的の胸に忍び
こむとはなあ！
おい、どこで食事をする？　おお、そうだ、
どんな喧嘩だったのだ？
なに、いや、もう結構、みんな聞いて知っている。
憎しみゆえの騒ぎも騒ぎだが、もっと苦しいのは恋ゆえの悩みさ。
そういえば、諍いながらの愛……愛するゆえの憎しみ……
ああ、そもそもが無から生まれた有……
心沈む浮気の恋……大真面目の戯れ心……
外見は美しい物みなの造り出す醜い混沌……

（1）原話にある Villa Franca の英訳。ヴェロナの東南十マイル余にある町。原話では、キャピュレット家の居城のあるところになっている。

鉛の鳥毛、輝く煙、冷たい火、病める健康……
眠りとは呼べ、真実の眠りならぬ覚めての眠り……
微塵も恋心わかぬこの僕が、しかもその恋をしているのだ。
おかしいとは思わないか？
ベンヴォーリオ　どうして、泣きたいくらいだ。
ロミオ　やさしの友よ、訊くは、一体何をだ？
ベンヴォーリオ　やさしいのはそっち、君の心の重荷をだ。
ロミオ　あいにく、そいつは、愛の情けがかえって仇だ。
僕一人の悲しみだけで、この胸はもう一杯だのに、
その上に、まだ君の悲しみまで背負わせて、
さらにも悲しみをひどくしようというのか？
せっかくだが、さらでだに重い僕の悲しみを増すばかりだ。
恋とはね、いわば深い溜息とともに立ち昇る烟、
浄められては、恋人の瞳に閃く火ともなれば、
乱されては、恋人の涙に溢れる大海ともなる。
それだけのものさ。ひどく分別くさい狂気、
息の根もとまる苦汁かと思えば、生命を養う甘露でもある。
じゃ、失敬、ベンヴォーリオ。
ベンヴォーリオ　待て、僕も一緒に行く。
こんなふうで、置いてきぼりにして行くなんて、ひどいぜ、君。
ロミオ　僕のほうこそ迷子なんだよ。ここにあって、ここにあらず。
これはもうロミオじゃない。ロミオはどこかほかにいる。
ベンヴォーリオ　真剣な話、恋の相手は誰なんだ？
ロミオ　なに、真剣勝負で、言えというのかい？
ベンヴォーリオ　真剣勝負？　冗談じゃない。
誰だか、真剣に言ってくれと言ってるだけだよ。
ロミオ　それなら、病人に遺書を書けと言え。
こいつはまさに真剣だ。
それにしても、心に病を持つ人間に、なんという不吉な言葉だ。
真剣に言うがね、ベンヴォーリオ、僕はある女を恋している。
ベンヴォーリオ　やっぱり図星だ、恋だと、僕もにらんだのだが。
ロミオ　狙いは名人、すばらしいぞ！　ところでいいか、女は美人。
ベンヴォーリオ　なるほど、やっぱり金的は一番に射止められる。
ロミオ　ところが、今度はとんだやぶにらみだ。
この女、
キューピッドの矢じゃいっかな落ちぬ。まず
月の女神の分別があり、
南蛮鉄は純潔の鎧に身固めしたところ、
可愛い恋のヘロヘロ矢くらいじゃ、擦り傷一つ負わぬ。
言い寄る口舌の囲みにも潰えず、恋の流し眼、
この攻め手にも、いっかな応じては出て来ぬし、
聖者も迷う黄金の誘いにも、どうして前を開きはせぬ。
ああああ、せっかく麗しさに恵まれた身も、宝を抱いて死んだんじゃ、
種もろともに滅びるわけ、その点じゃ拙い運命というものだ。
ベンヴォーリオ　じゃ、一生独身を立て通す誓いでもしているのかい？
ロミオ　そうさ、ところがその物惜しみがね、実は途方もない無駄遣いなんだ。
なぜといって、美というやつは情知らずに飢えさせると、
結局子々孫々の美しさまで、摘みとってしまうことになる。
あの美しい、あの賢い、いや、賢しくも美しい女がさ、
僕を絶望させて、まさか天の祝福に与るはずはあるまい。
あの女は、一切恋の思いを断ったという、おかげで
今その話をしているこの僕は、もう生ける屍も同然なのだ。
ベンヴォーリオ　僕の言うことを聞くんだね、その女のことは忘れたまえ。
ロミオ　ああ、どうしたら忘れられるのか、そ

れからまず教えてくれ。
ベンヴォーリオ　もう少し、君の眼を自由にしてやるのさ、
もっと他の美人も見てみたまえ。
ロミオ　それは、かえって
あの女のすばらしい美しさを、ねけい引き立てるばかりだよ。
美しい女の額に接吻する、羨しい仮面[2]を見たまえ、
黒ければこそ、かえって蔭に隠れた白い顔を思わせるのだ。
突然に盲いた男というものは、失った視力という
貴い宝、それを決して忘れることはできないのだ。
絶世の美人とやらを、見せるなら見せてくれてもよい、
だが、なんの役に立つだろうか。結局ただ、
さらに一きわ立ち優った
あの女の姿を思わせる、いわば心の覚書になるだけさ。
失敬しよう、忘れてしまう方法など、君などに教えられるものか。
ベンヴォーリオ　いずれ忘れずに伝授する、忘れ死にはしない積りだから。〔両人退場〕

第二場　街　上[3]

キャピュレット、パリスおよび召使登場。

キャピュレット　だが、わしばかりではない、
　モンタギューも同様、
咎めも同じい、両成敗ということに相成った。
　それに、思うに、
われらごとき老人にとっては、争いをやめることも困難ではない。
パリス　お二人とも、聞えた名門でいられながら、
長い間、まるで犬と猿の間柄でいられるのは
　残念な次第。
だが、それはとにかくとして、私のお願いは
いかがでしょう？
キャピュレット　それはもう、前申し上げたこ
　とを繰り返すだけのこと、
娘はまだ、全くの世間知らずでございまして
　な、
まだ十四の春も迎えていませんような始末、
娘盛り、せめてもう二夏の繁りを過ぎません
　ことには、
嫁入り頃とは、どうもまだ思えませんので
　ね。
パリス　だが、もっと若くて、幸福に母親になっている人もありますが。
キャピュレット　だが、成るに早いは、壊るるにも早い、とか申してな。
わしも、子供にはみんな先立たれてしまい、
　残る楽しみは、
あの娘ばかり、あの娘だけが、この世での希望の一切というわけです。
だが、パリス君、とにかく本人に言い寄って、
　心をつかむことですよ。
わしの意向などは、彼女の承知へのほんの添え物にすぎん。
彼女さえウンと言えば、わしの同意、承諾などは、
むろん彼女の選択の外へは出ない。ところで、
今夜は、恒例の宴会を開く運びになっておりましてな、
気の合う人たちを、大勢お招きしてあるのだが、
そこで、君もですな、最大の珍客として、
ぜひ一枚加わっていただけるなら、それだけ
　賑やかさが添う道理。
ぜひ期待してもらいたいのだが、今夜ばかりは、

(1) ここまた地口問答がつづく。原文では、
ベンヴォーリオ（一）真剣な話、（二）悲しみをもって（in sadness）相手は誰だ？
ロミオ　なに、（悲しみの）呻きをあげて、言えというのか？
ベンヴォーリオ　呻きをあげて？　そうじゃない。
だが、（一）真面目に、（二）悲しげに（sadly）話せというのだ。
ロミオ　なら、病人に、（一）真面目に、（二）悲しみつつ（in sadness）遺書を書けといえ。
(2) エリザベス朝婦人は劇場など公衆の前に出る時には、普通黒、または色物の仮面をつけた。
(3) 同じく外舞台。ただし、時の経過はある。日曜日の午後か。次ページ下段2行目召使に対するロミオの挨拶、「いよう、おい、どうだ。」の原文は、Good-den（=good evening）とある。

数ならぬわしの家も、闇の夜空を明るくする、
いわばこの世の
星とでも申そうか、美人たちの姿が見られる
はずですよ。
歩みもどかしい冬の跡を追って、装い華やか
な
春が訪れる時、いつも元気な若者たちが感じ
る
あの喜び、まさにそれに似た喜びを、今夜は
わしの家で、
経験してもらえるつもりですよ、花ならば
蕾という処女たちに立ち交わりながらな。よ
く見、よく聴いて、
これが一番と思われるのを、好きになられる
がよろしい。
とくと御覧になられてな、——むろん娘もい
ましょうが、
これはただ数に列なるだけのこと、物の数に
は入りますまいて。
さあ、御一緒に参りましょう。〔召使に紙片を
渡しながら〕これ、お前は、
ヴェロナじゅうを駆けめぐって、ここにある
名前の方々を、
ちゃんと探しあてて申し上げるのだ、ぜひと
も今夜は、
お出でをお待ち申し上げておりますとな。
〔キャピュレットとパリス退場〕

召使　ここに書いてある旦那衆を探しあてろだと！靴屋は物差、仕立屋は足型、漁師は鉛筆、画家は網と、それぞれの商売道具なら、そいつはちゃんと物の本にも出てるだが、俺への命令は、ここに書いてある名前の旦那衆を探しあてろって言うことだ。ところが、なにせどんな名前が書いてあるんだか、そいつが皆目見あたらねえ。学のある旦那にでも、聞かにゃなるまいて、——おっと、いい塩梅だ。

ベンヴォーリオとロミオ登場。

ベンヴォーリオ　チェッ、ねえ、君、火を制するには火に如かず、
新しい痛みは、古い苦痛を消すという。
グルグル廻って眼が廻りゃ、逆に廻って癒す
に限る。
どんなに激しい悲しみも、別のができれば忘
れるものさ。
君なんぞも、その眼がなにか新しい病気にか
かるとよい、
すれば、きっと古いほうの病気は消えてしま
う。

ロミオ　それにはね、例のオオバコの薬が妙薬だとさ。

ベンヴォーリオ　妙薬？　何のだ？

ロミオ　怪我のさ、向う脛の。

ベンヴォーリオ　おい、ロミオ、貴様気でも狂ったのか？

ロミオ　狂っちゃいない、だが、考えてみりゃ狂人以上の窮屈さだ。
牢屋につながれて、食物はもらえず、笞打ちはされる、折檻は受ける、——いよう、
おい、どうだ。

召使　旦那様、御免下せえまし。旦那は字がお読めになりますだかね？

ロミオ　読めるぜ、自分のみじめな運命くらいはね。

召使　そりゃ、旦那、本でお読みになったんじゃねえだよ。おうかがい申してるなァね、目で見て、ちゃんとお読めになれますだかね、ちゅうことだよ。

ロミオ　そりゃできる、文字と言葉さえ知ってりゃね。

召使　なんと正直な御挨拶だ。じゃ、もう失礼しますでがす。

ロミオ　おい、待て、読める、読めるぞ。〔紙片を読む〕
『マルティーノ殿、同夫人並びに令嬢方、アンセルム伯爵、同じく令妹方。ヴィトルーヴィオ御後室様。プラセンシオ殿並びに同令姪方。マキューシオ、並びに弟ヴァレンタイン。キャピュレット叔父上、同夫人並びに令嬢方。姪ロザライン、リヴィア。ヴァレンシオ殿、同従弟ティボルト。ルーシオ、並びにヘレナ嬢。』
すばらしい顔ぶれ、どこへ集まるのだ？

召使　てまえ当家へ。

ロミオ　だからどこへなのだ？

召使　晩餐に、てまえどものお邸へ。

ロミオ　誰のお邸なんだ？

召使　てまえ主人の。
ロミオ　なるほど、それを先に聞くのだったな。
召使　お訊ねなくとも申し上げますだよ。主人と申しますのはな、あの物持ちのキャピュレット様でございますだがね。ところで、もし旦那がモンタギュー家のお方なら別だが、でなきゃ、どうぞお出でなすって、いっぱい召し上がって下せえまし。では、失礼しますで。
〔退場〕
ベンヴォーリオ　このキャピュレット家の古い慣例の宴会にはね、
君の恋するロザラインも来ているはずだ、
ヴェロナじゅうの美人という美人は、一人残らず同席でね。
君も行きたまえ、そして一つ、とらわれない眼でもって、
あのロザラインの顔と、僕が教えるある女とを比べてみるのだ。
君のいわゆる白鳥を、まるで烏のようにして見せてやるから。
ロミオ　敬虔な、信仰にも似た気持で仰いでいるこの僕の眼が、
かりにもそんな偽りを言うとすれば、涙は炎に変ってしまえ。
そして幾度か涙の河に溺れながら、まだ死に切れぬこの両の眼、
見え透いた異端者どもを、偽り者として焼き殺してくれ。
僕のロザラインよりも美しい女だと？　万物照覧のあの日の神でさえ、
この世はじまって以来、あの女ほどの美人を見たことはないはずだ。
ベンヴォーリオ　チェッ、君はあの女を美人と見た、だが、それは他に誰もいない時、
ただあの女一人を、君の双の眼にかけて比べ合わせていたのだよ。
だから、今度は一つ、その水晶の秤皿に、一方には君の恋しい人、
もう一方には、今夜宴会で見せてやる、あるすばらしい別の女、
それを載せて、量り比べてみるがよい。今じゃ
一番のつもりのその女が、まず相当に見えればめっけものだ。
ロミオ　行くとも、ただしそんな美人が見たいからじゃない。
僕のあの女のすばらしさ、それを楽しむためだがね。

第三場　キャピュレット家の一室[1]

キャピュレット夫人と乳母登場。

キャピュレット夫人　乳母、どこにいます、ジュリエットは？　ここへ呼んでおくれ。
乳母　あれまあ、私のあの処女の印にかけましてね、と申しましても、なに、十二の時のあれじゃございますがね、——
ちゃんとお呼び申したはずでございますのにねえ。仔羊さんのお嬢様ァ！　テントウ虫のお嬢様ァ！
あれまあ、私としたことが、——お嬢様ったら、どこにいらっしゃいましたんでしょうねえ？　ジュリエット様！

ジュリエット登場。

ジュリエット　まあ、どうしたの？　だれがお呼び？
乳母　お母様でございますよ。
ジュリエット　お母様、ここよ。なに御用？
キャピュレット夫人　実はねえ、——乳母、
ちょっと座をはずしておくれ、
内密の話だもんだからね。——ああ、乳母、やっぱりここへ来ておくれ。
そうだった、お前にも聞いておいてもらわなくちゃいけないわねえ。
お前も知っての通り、娘も、もうそろそろ年頃なんでねえ。
乳母　そうでございますとも、お嬢様のお齢なら、乳母はもう何日何時間というところまで承知いたしております。
キャピュレット夫人　ところが、まだ満十四にはならないのだよ。
乳母　そうでございますとも、

---

(1) 引幕を開いて内舞台が主。最初の夫人と乳母の登場は、奥よりのていで、内舞台入口から。ついでジュリエットの登場は外舞台入口からか。最後は内舞台入口から一同退場、幕を閉じる、時間は一六ページ上段23行、召使の言葉にある通り、日曜日の宵、食事前。

なんなら私のこの歯を十四本お賭けいたしま
してもよろしゅうございます、
——ところが奥様、ハカケなや、それがもう
四本しかございませんのでなァ、
——ところで奥様、八朔までは、あともう何
日ございましたかしら？

キャピュレット夫人　二週間と、ちょっと
じゃない。

乳母　ちょっとだか、そっとだか、それは存じ
ませんがね、一年と申せば、
日もたくさんございましょうにね、奥様、お
嬢様が十四におなり遊ばすのが、ちょうど、
その八朔の晩でございますよ。そう申せば、
私の娘のスーザン——やれやれ、ナムアミ
ダブ、ナムアミダブ——
あれがちょうどお嬢様と同年でございまして
ね。ああ、あれも神様のお召しに与りまし
たが、
過ぎものでございましたよ、私などにはね、
——まあまあ、それはそれといたしまして、
そうでございますとも、八朔の晩で、はじめ
てお嬢様は十四におなり遊ばすんで。
間違いございませんとも、乳母は、よっく憶
えておりますですよ。
ほら、あの地震がございましたっけが、あれ
からちょうど十一年になりますんでね、
忘れもいたしませんよ、お嬢様のお乳離れの
日と申しますのがな、まあ一年と申せば、
日もたんとございましょうにな、奥様、折も
折、ちょうどその日でございましたもんで。
と申しますのがね、奥様、ちょうどあの日、
私は乳首に苦蓬の汁を塗りましてね、
鳩小屋の壁ぎわで日向ぼっこをしておりまし
たですよ、そうそう、そうでございます、
旦那様と奥様は、マンチュアへお出かけで、
御留守でございましたっけ。
なあに、乳母だって、それくらいのことはち
ゃんと憶えておりますとも。ところがでご
ざいますね、
今も申しましたようにな、お嬢様としたこと
が、乳首の苦蓬をお嘗めになりますとね、
苦いもんでございましょう、それがお可愛い
ったら、すっかりおむつかりになりまして
ね、
私の乳首をお叱りになるんでございますよ。
折も折、ちょうどその時でございましたっ
け、
鳩小屋がガタガタと申しましてね、そうなり
ゃもうお暇だ、出てけ、もなにも、
あったもんじゃございませんよ、大急ぎで駆
け出しましたっけ。
さあ、それからが、奥様、はやもう十一年で
ございますからねえ。あの頃だって、
お嬢様はもう立派に一人立ちなさいましたし、
それどころじゃございません、
もうチョコチョコ、駆け歩きもおできになり
ましたんでございますものねえ。
そうそう、その前日でございましたっけ、転
んでオデコに御怪我をなさいましたのが。
それでね、あなた、主人が、——やれやれ、
ナムアミダブ、ナムアミダブ——
あれで、主人ってのが、そりゃ面白い人間で
ございましたっけが、——すぐと抱き起し
て差し上げますとね、
申すことがいいじゃございませんの、『ああ、
よしよし、うつ伏せにお転びですかい？
なに、もう少しお利口にならしゃったら、仰
向けにお転びなさいましょ、
よござんすかい、お嬢様、』って申しまして
ね、すると、あなた、びっくりいたします
じゃございませんの、
赤様ったら、ピタリッとお泣き止みになって、
ウンウンっておっしゃるんでございますよ。
それがまあ、とうとう真のことになるのかと
思いますとな、奥様——
そりゃもう、乳母忘れはいたしませんとも、
たとえ千年長生きいたしましたところでな。
『よござんすかい』って、そう主人が申し上
げますとね、まあ、お嬢様ったら、
ピタリッとお泣き止みになって、ウンウンっ
ておっしゃるじゃございませんの。

キャピュレット夫人　もうその話はたくさん。
後生だから黙って。

乳母　はいはい、でも、奥様、笑わずにはいら
れないじゃございませんの。
ピタリッとお泣き止みになって、ウンウンっ
ておっしゃるんでございましょう。
でも、そうそう、そのオデコにね、奥様、可
愛いヒョッコの
お睾丸ほどのコブなどおこさえになりまして

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com